

医芸歌壇



宿題

東京 小松安彦

昼前に春一番の吹きたれど夕べの寒き風に驚く
三月になりても冷たき雨の降り梅の花をば散らせてしまふ
赤き花並び咲きをり公演の椿の花とさざんくわの花
沈丁花香る宵なり散策にいろいろありし三月ふ
菜の花は今年も咲けり宿題の俳句いまだに推敲しをり

東日本大震災

神奈川 武井忠夫

ふと過ぎる
青森 秋霧朝光
昏るるまで障子閉さず眺めん吾がため咲きてくれしあじさい
風の音にしづかに乗りて砂浜に寄りくる波としばしを語る
玉露入れどら焼き食みつふと過ぎる不透明なるわが時間割
丈高き紅の芙蓉が風に揺れ夕べの予報は台風告ぐる
桜咲く季節となれどわが知己の店の閉鎖を聞くはさびしき

大災害

千葉 蒲谷玲子

もう狎れし地震速報ベランダに出れば眩しき春光るなり
万葉の花や如何にと訪ひし園被害ありとて閉ざされて居り
枕許避難準備をして眠る板につきたる戦中派吾
モールス信号手旗信号真剣に生も死もなき生徒でありき
灯火管制ふるき言の葉言い合ひて食事よく嘯め今にして嘯め

大地震・大津波後に原発の破壊相次げる東北の惨
胸ふたぎさながらに見つ迫る津波に家並みくまなく潰えさる町
死者七千・一万九千もの行方知れず記録を超えし激震の果て(M9)
過去二回の津波経しより成りし堤防も防災プランも空なりし
とふ
三陸及びチリ地震津波
「く」字形に電車は曲がり大破してねじれしレール裏返りたる
(仙石線・野蒜駅付近)

「寒一」

東京 初芝澄雄

青山の通りを過ぎて赤坂に御用地ひだり坂下り行く
プリンスの白きビル面仰ぎ見て弁慶橋の片方に立ちぬ
紀尾井坂クロガネモチの実もたわわ黒き輝き見上げ上がりぬ
日本晴れ人影もなきバス停に立ちて仰ぎぬ古里の空
花咲いたしげくと見る古里の吾が家の庭の紅白の梅

大震災

東京 林 宏匡

被災地のテレビニュースを見つゝゐて自然を畏怖し祈る
詠ふには余りにむごき震災に心さらはれ声にも出でず
絶句とはかかる景かも大津波幾万の民を呑み込みにけり
惨酷な自然の仕打ち幾万の民を選びて波に攫へり
震災の犠牲になりし人々を悼むか固き悽答は

大地震

茨城 羽生 藤伍

大地震グラウンドゴルフの皆たおれ芝生が裂けて黒水湧き来
地震来て二階瓦の長き棟崩れて屋根に散れる家々
地震にて落ちた大橋は一車線長き歴史の役を終えしか
一週後グラウンドの裂け目は噴き出せる白き砂にて被われにけり
晴れた日の天井裏にわが池の光と影の輪明滅止まず

旭山動物園

東京 横田 英夫

雪面を飛ぶごと雪の流れ行くバス行き悩む美唄への道
エンシカもまた狼もこの寒き粉雪の舞う大地に憩う
矢の様にす早く泳ぐペンギンを仰ぎつつ行く水槽の下
人波の二手に分れどよめけり体揺らしてペンギンの行進
よちよちと毛色変わる雛鳥の群追いて行く姿愛らし

「大震災と医師」—ご意見、提言、感想をお寄せ下さい

夏季号の原稿募集要項

締め切り

7月8日(金)

平成7年(1995年)1月17日(火)に発生した阪神淡路大震災の惨禍もまだ記憶に残っているさ中、今回の東日本大震災。私たちのなかにも被害を受けた会員がおられます。

被災者でありながら、その一方で医師としての重い責務を果たされた活躍ぶりを見聞しました。1か月を経て、まだ続く大型の余震。気持ちがち落ち着く余裕はありませんが、大震災や災害の経験の有無は問いません。普段の心構えなども含めて原稿をお寄せください。

◇そのほか随想、俳壇・歌壇などは普段どおり。

.....

※冬季号の訂正 「ほん」83頁中段5行目 衛

生楽教室↓衛生学教室▽俳壇84頁 下段 篠田

先生1句目 老杉を囲み若葉が層を成す↓落葉

▽歌壇86頁下段 小松先生3首目 年末のきた

りと仰ぐ冬の星座↓星星▽同4首目 関東の大

地震↓大震災

お詫びして訂正します。